

<総括>

出題数	現代文 1題・古文 1題・漢文 1題 (経営学部は現代文1題・古文1題) (海洋政策科学部文系科目重視型は現代文1題)	試験時間 100分 (経営学部は80分) (海洋政策科学部文系科目重視型は60分)
-----	---	---

- ・本文——本文は、「暴力」が人間の世界と対立する特異なものではなく、むしろ人間の世界と連続していることについて論じた評論。本文量は約4,900字で昨年に比べ約300字増加。
- ・設問——例年同様、部分読解型の問題と本文全体の論旨を踏まえる要約型の問題で構成されている。

<本文分析>

大問番号	一
出典 (作者)	「暴力はいかにして哲学の問題になるのか」(飯野勝己)
頻出度合 ・的中等	特になし
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加)
難易 前年比較	難易(易化・ やや易化 ・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評論	問一	記述式	標準	傍線部の内容を80字以内で説明する問題。 「そうしたこと」という指示語の内容を的確に踏まえること。
		問二	記述式	標準	傍線部の内容を80字以内で説明する問題。 「暴力」が「他者」の存在とどのように関わっているのかを簡潔に説明する。
		問三	記述式	標準	傍線部の内容を80字以内で説明する問題。 「特異点としての暴力」を説明した上で、それが「ノーマルな秩序」とどのような関係を持っているのかを説明する。
		問四	記述式	標準	本文全体の論旨を踏まえたうえで、傍線部の内容を160字以内で説明する問題。 「暴力」と「私たちの世界」の関係を、本文に提示された二つの論点に触れながら説明する。
		問五	記述式	標準	漢字問題。「正邪」「回帰」「唐突」「基調」「侮辱」の5問。 ※問一～問三の80字、問四の160字は昨年と同じ。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

- ・意味段落に関わる設問を三つ出題した上で、最後に本文全体に関わる要旨説明型の設問を出題するという構成は、東京大学の□と同じ。
- ・長めの評論文を中心としてさまざまなジャンルの文章に接し、基本的な読解力を高めていくこと。
- ・文章の読解においては、まず、全体の趣旨を大きく把握することが肝要である。そのうえで、部分の内容を的確に読み取る力をつけていこう。
- ・また、答案作成においては、理解した事柄を簡潔・的確にまとめあげる力も養成しておかねばならない。その際、問四がそうであるように〈要約〉の練習が効果的である。

<総括>

出題数	現代文 1題・古文 1題・漢文 1題 (経営学部は現代文1題・古文1題) (海洋政策科学部文系科目重視型は現代文1題)	試験時間 100分 (経営学部は80分) (海洋政策科学部文系科目重視型は60分)
-----	---	---

・直近の出典は、歴史書、作り物語、説話、日記、軍記、歌物語、説話と推移して、今年は歌論だった。
 ・本文分量は、昨年の長文から、神戸大学古文の標準的な1000字前後に戻った。
 ・設問数は5問から6問に復した。
 ・本文中に和歌が含まれていたが、現代語訳で問われたのは第四句のみで、単純な現代語訳だった。
 ・説明問題の分量の推移は以下の通りで、今年も例年並み。
 15年度：2問 (すべて字数制限付きで、各70字以内)
 16年度：3問 (すべて字数制限付きで、70字以内・50字以内・80字以内)
 17年度：3問 (すべて字数制限付きで、50字以内・50字以内・70字以内)
 18年度：2問 (うち字数制限付きは1問で、80字以内)
 19年度：2問 (すべて字数制限付きで、60字以内・50字以内)
 20年度：2問 (すべて字数制限付きで、50字以内・70字以内)
 21年度：3問 (うち字数制限付きは2問で、50字以内・60字以内。あとは5字程度の抜き出し)
 22年度：3問 (うち字数制限付きは2問で、50字以内・40字以内。)
 23年度：2問 (すべて字数制限付きで、50字以内・60字以内)
 24年度：2問 (すべて字数制限付きで、50字以内・80字以内)
 ・10年続いて文学史が出題された。一昨年は記述式で問われたが、今年は昨年同様客観式だった。

<本文分析>

大問番号	二
出典 (作者)	『俊頼髓函』(源俊頼)
頻出度合 ・的中等	出典は頻出
分量 前年比較	分量 減少 ・やや減少・変化なし・やや増加・増加 約1040字 (昨年約1650字)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

4 / 5

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
二	歌論	問一	客観式	やや易	文法問題。「ぬ」の識別（3箇所）。選択肢五つから選ぶ。
		問二	記述式	標準	現代語訳の問題（4箇所）。一昨年あった「わかりやすく」という条件は今年もなかった。 （ア）「わたりはてねば」。「～はて」「已然形+ば」の訳出がポイント。 （イ）「かまへて」。陳述の副詞ではないという判断がポイント。 （ウ）「おぼつかなさに」。「おぼつかなさ」の訳出がポイント。 （エ）「中々にて」。「中々に」の訳出がポイント。
		問三	記述式	標準	現代語訳の問題。「さること」の内容を明らかにしながら、という条件付き。「さること」のさす出来事的確な要約と、反語構文の理解と訳出がポイント。
		問四	記述式	標準	理由説明の問題。「あまの河」の和歌を「ひがごと」のように捉えた理由を五〇字以内で説明する。傍線部の直前の内容をまとめる。
		問五	記述式	標準	内容説明の問題。「歌も、逢ひながら、逢はずとはいふなり、とこそ承はりしか」はどのようなことを述べているのか、「歌」についての筆者の解釈を補いながら、八〇字以内で説明する。本文後半「かやうのことは」以下の内容を踏まえて解答する。
		問六	客観式	標準	文学史の問題。「貫之」の作品を五つの選択肢から選ぶ。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・文法や現代語訳の設問は定番であるので、指示語や接続語などの文脈をとらえつつ、文法や語法に留意した丁寧で正確な訳出を普段から心がけたい。
- ・記述式説明問題は、例年、各問40～80字程度で問われるので、古文学習の際には、その本文の要約を常に練習するように心がけるとよい。普段の訓練が効果を発揮するものである。
- ・文学史について、成立年代、ジャンル、作者など、基本的なものは押さえておきたい。

<総括>

出題数	現代文 1題・古文 1題・漢文 1題 (経営学部は現代文1題・古文1題) (海洋政策科学部文系科目重視型は現代文1題)	試験時間 100分 (経営学部は80分) (海洋政策科学部文系科目重視型は60分)
-----	---	---

『史記』孔子世家からの出題。孔子が琴の稽古をして曲の真髓を理解したという話で、読み取りやすい。『史記』からの出題は2016年度以来。設問数は4つ、解答箇所は7つで、昨年度と全く同じ。出題形式も語の読みが3つ、書き下し文が2つ、現代語訳が1つ、字数制限のある説明問題が1つで、昨年度と全く同じであった。書き下し文を問う傍線部は例年どおり白文(1カ所だけ読みが与えられていた)であったが、現代語訳と説明問題の傍線部には返り点・送り仮名が付いており、語の読みの傍線部にも送り仮名が付いていて易しい。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	前漢『史記』孔子世家(司馬遷)
頻出度合 ・的中等	稀
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)(昨年)166字→(本年)141字
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	史伝	問一	記述式	やや易	語の読みの問題。①「已(すでに)」②「為人(ひととなり)」③「蓋(けだし)」の読み。
		問二	記述式	やや易	書き下し文の問題。(ア)「可以～」を「もって～べし」と読む。(イ)再読文字「未」と文の構造に注意する。
		問三	記述式	標準	現代語訳の問題。「非(あらずんば)」の仮定条件と「誰(たれか)」を使った反語形、「能(よく)」の可能的意味に注意し、「此(これ)」の指示内容を明らかにして訳す。
		問四	記述式	やや難	理由説明の問題。孔子の発言の内容に注意し、師襄子の敬意の理由を、設問の条件に合うようにまとめるが、制限字数内にまとめるのには工夫が必要である。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

重要語句と句形の知識に習熟し、特に白文を読む力を身につけておくこと。問題文全体の構成を考えながら、文章の展開を正確に読み取る訓練を積んでおく必要がある。さらに説明問題の答案を制限字数内で簡潔に要領よくまとめる訓練もしておくこと。